

ほんごう古墳の里

HONGO - KOFUN - SATO



国史跡 御年代古墳

所在地 本郷町南方
昭和8年(1933年)国指定史跡
玄室は前後二室あり、前室は長さ3m、幅2.2m、中央に、家形石棺(長さ2.36m、幅1.34m、高さ1.2m剝抜形)があり、後室は長さ3.6m、幅1.9mこの中央にも花崗岩の家形石棺(長さ2.45m幅1.08m、高さ1.4m剝抜形)がある。特に、石棺の蓋石は両方共縄掛突起の無い家形で表面は非常に非常に優美に削られている。この様な横穴式石室は大陸に発達した墓制の影響を受けて6~7世紀の間に我が国にも流行したもので、この古墳の如く玄室が複数の複式墳はその影響の最も顕著なものであろう。特に玄室の天井や羨道は巨大な一枚の巨石で、立体的に築造され、計算し尽くされた精緻な内部構造は優れたものである。副葬品(須恵器など)は東京国立博物館に所蔵されている。

三原市 本郷町観光協会
平成23年12月発行

ガイド案内連絡先

三原市本郷南5丁目26-11
Tel 0848-86-5717
平日のみ; 9時~12時迄



ほんごう古墳の里 歩いて見よう歴史ロマンの散歩道

*約1.5時間の散歩道です。
*家族揃って歴史のロマンが満喫できるコースです。
*貞丸一号・御年代古墳には音声説明機を設置しています。
ボタンを押して説明をお楽しみ下さい。



古墳の里 出発拠点迄 (所要時間)
車 ; 本郷 IC → 8.7km ; 13分
徒歩 ; 本郷駅 → 5.7km ; 85分



- 【ご案内】
音声説明機設置場所
(本郷町観光協会施行)
史跡 貞丸1号古墳
御年代古墳
梅木平古墳
城跡 新高山城跡頂上
(詰の丸)
寺院・社
楽音寺
東禅寺
永福禅寺
大日堂
恵美須神社
大看板(両面看板)
沼田本郷の天然水

ボタンを押して説明をお楽しみ下さい。

市史跡 二本松古墳



所在地 本郷町南方

平成2年(1990年)町指定史跡

平成17年行政合併に伴い、市指定史跡
二本松古墳の石棺は、組合式石棺であるが、長い間、南方神社の踏石や手水鉢に分解して使われていた。昭和58年12月に尾原(地元)の人々によって復元、安置された。
石材は貞丸古墳と同じ、流紋岩質凝灰岩で兵庫県高砂市竜山の石である。
縄掛突起のある立派な石棺の蓋石である。

【二本松古墳の石棺の特徴】

- ①沼田川流域に発見されている石棺のうち最古に築造されている。
- ②石棺の内面は古墳時代の5世紀頃に塗った朱とは思われぬ朱色を見ることができる。
- ③屋根形の蓋石の屋根の平坦面が狭長である。
- ④屋根の傾斜が比較的急にして稜線が明確である。
- ⑤縄掛突起が立派で形骸化が少ない。

音声説明機設置

県重文 大日堂

所在地 本郷町南方

平成7年(1995年)県指定重文

本尊 木造宝冠阿弥陀仏坐像

大日堂の本尊、宝冠阿弥陀仏とはインドでは、仏教の最高尊格であるといわれている。如来にも宝冠を戴かせる「宝冠仏」の一つの相で、それが中国、そして日本へと伝わった。
大日堂の宝冠阿弥陀仏は平安時代前期の制作と考えられている。
境内の左に、貞丸1号古墳がある。



音声説明機設置

県史跡 貞丸一号古墳



所在地 本郷町南方

昭和24年(1949年)県指定史跡

貞丸1号古墳は、御年代古墳の西方約300mのところであり、古墳時代後期のもので、御年代古墳と同様に山裾を穿(うが)ち石室を築いた横穴式石室で6世紀末頃の円墳と推定される。
羨道はすでに破壊されているが、古墳の玄室の大きさは、奥行4.5m、幅2m、高さ2.15mで、この玄室には長さ2.2m、幅1.1mの剝抜(くりぬき)形1基の家形石棺が置かれているが、蓋石は持出されたものか紛失している。この石材は、流紋岩質凝灰岩で、産地は兵庫県高砂市竜山といわれている。
平成13年3月24日に発生した芸予地震で一部が崩落したが、平成17年3月に修復が完了した。

音声説明機設置

昭和25年(1950年)県指定史跡
貞丸2号古墳は、貞丸1号古墳の上、約40mのところであり、今日では封土もなく、天井岩も露出している。石室は、1号古墳と同じ横穴式石室で中には組合式家形石棺が置かれていたが、今日では全く解体され蓋石は同じ所の大日堂にある記念碑の台座に、側石の一枚は折半され、堂前の沓石(くついし)と墓地の地蔵尊の台、及び屋根に使用されており棺材はほとんど分散されてしまっているが、石材は1号古墳と同じ流紋岩質凝灰岩で、6世紀末頃の円墳と推定される。

【参考】

- ①玄室(げんじつ) ; 石棺が安置されている主室をいう。
- ②羨道(せんどう) ; 玄室(主室)と外部を結ぶ通路をいう。
- ③玄室と羨道との接続部は袖部(そでぶ)と呼ばれている。

県史跡 貞丸二号古墳



【参考】

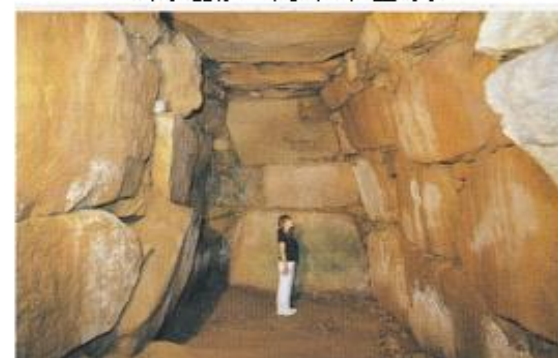
古墳時代人の暮らし



古墳時代の住居内の様子

6世紀、古墳時代後半になると住居の中にカマドが設けられるようになり、近年まで民家の土間にあったものと同じ構造です。カマドは土の竈から採集した粘土と、赤土などを混ぜ合わせた土で造られました。カマドの奥は煙だしといって、煙定の上にくるいてあって、煙が屋外に出るような仕組みになっていました。壁の住居は一回が約5、5mの方形で、4本の柱をもち、梁は板などで補強がされていました。カマドでは底に水をためた朝長(あさなが)の壺の中に飯を合子にして、炊物を蒸しています。(歴史資料から想像)

県史跡 梅木平古墳



所在地 本郷町下北方

昭和24年(1949年)県指定史跡

梅木平古墳は、広島県最大の横穴式石室で奥行13.1m、幅2.9m、高さ4.2mを持ち、日本の巨石墳に並ぶ規模である。
6~7世紀の後期古墳は家族墓の性格が強くなり山麓に群集墳を形成するようになる。
石室は入口を東に向け開口しており、玄室奥を両袖、前は片袖で羨道と玄室とに区分している。奥壁には巨石が3段に、側壁には3段4段に積まれており、巨石の隙間は小さな石で補っている。天井には玄室に4枚、羨道に4枚の巨大な石を架けてある。玄室の床面には小礫が露出し、副葬品などの確認はない。
今から1360年前 この規模から沼田佐伯部を管理した、佐伯直など有力支配者の家族墓と考えられる。東に接する寺院跡の横見庵寺(国史跡)はこの古墳に葬られた氏族の氏寺的のものとして注目される。
古墳の墳丘上にある小堂にはこの寺にあった物と考えられる朽損した平安時代の仏像二躯が祀られている。正徳5年(1715)の名所旧跡帳には「梅慶庵塚」と記されている。

音声説明機設置